

コード No. 18277

**Anti-Rat  
GRO/CINC-2 $\alpha$ , 2 $\beta$  (N) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100  $\mu$ g

はじめに : GRO/CINC-1 (Growth Related Oncogene/cytokine-induced neutrophil chemo attractant 1)は元々、IL-1 $\beta$  刺激されたラット腎臓の上皮細胞(NRK-52E)の培養上清から精製されました。ラット CINC-1 をコードするアミノ酸配列は 1989 年に富山医科薬科大学で渡辺らのグループによって同定されました。CINC-1 はケモカインのアルファ(CXC)サブファミリーに属し、それに加え 3 つのラット CXC ケモカイン(CINC-2 $\alpha$ , CINC-2 $\beta$ , CINC-3/MIP-2)も同定されています。CINC-1 タンパク質の配列は 63-67%が CINC-2 $\alpha$ , CINC-2 $\beta$ , CINC-3/MIP-2 と一致しています。また GRO $\alpha$ , GRO $\beta$  および GRO $\gamma$  では、CINC-1 とそれぞれ 68%, 71%, 69%の相同性があります。このことから、ラット CINC $s$  がヒト GRO $s$  のカウンターパートであることが示唆されています。

免疫抗原 : GRO/CINC-2 $\alpha$ , 2 $\beta$  の共通 N 端部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100  $\mu$ g/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8  $^{\circ}$ C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20  $^{\circ}$ C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタンブロッティング 2~5  $\mu$ g/mL にて使用可能

使用方法

特異性 : Rat GRO/CINC-2 $\alpha$ , -2 $\beta$  と反応。Rat GRO/CINC-1, -3 と非交差